

第七回国会 労働委員会 議 録 第八号

(刷直しの分)

(四四四)

昭和二十五年三月二十二日(水曜日)

午後二時三十分開議

出席委員

委員長代理 吉武恵市君

理事 篠田 弘作君 理事 福永 健司君

理事 三浦寅之助君 理事 青野 武一君

麻生太賀吉君 天野 公義君

塚原 俊郎君 船越 弘君

松野 頼三君 赤松 勇君

前田 種男君 柄澤とみ子君

出席國務大臣 労働大臣 鈴木 正文君

出席政府委員

内閣官房副長官 菅野 義丸君

労働事務官 賀來才一郎君

(労働局長) 寺本 広作君

労働基準監督官 齋藤 邦吉君

労働事務官 齋藤 邦吉君

(職業安定局長) 齋藤 邦吉君

委員外の出席者

専門員 橋大路俊一君

専門員 浜口金一郎君

二月二十四日

委員金原舜二君、佐藤親弘君及び稻葉修君辞任につき、その補欠として古島義英君、山口好一君、及び北村徳太郎君が議長の指名で委員に選任された。

同月二十七日

委員古島義英君及び山口好一君辞任につき、その補欠として金原舜二君及び佐藤親弘君が議長の指名で委員に選任された。

三月七日

委員川崎秀二君辞任につき、その補欠として稻葉修君が議長の指名で委員に選任された。

同月九日

委員小淵光平君辞任につき、その補欠として柳澤義男君が議長の指名で委員に選任された。

同月十四日

委員佐藤親弘君辞任につき、その補欠として益谷秀次君が議長の指名で委員に選任された。

同月二十二日

稲葉修君が理事に補欠当選した。

三月三日

夏時刻法の一部を改正する法律案(内閣提出第八号)

労働組合法の一部を改正する法律案(内閣提出第一〇二号)

二月二十日

名古屋造船株式会社における賃金運払解消対策に関する請願(田島ひで君紹介)(第八八二号)

同月十三日

労働組合法の一部を改正する法律案(内閣提出第一〇二号)

二月二十日

名古屋造船株式会社における賃金運払解消対策に関する請願(田島ひで君紹介)(第八八二号)

同月二十三日

同月九日

失業対策予算増額及び労働行政の地方移譲等に関する請願(門司亮君紹介)(第一一九七号)

同(川崎秀二君紹介)(第一一九八号)

同月九日

呉市における失業対策に関する請願(春日正一君紹介)(第二二四八号)

同月十三日

失業対策予算増額及び労働行政の地方移譲等に関する請願(島田末信君紹介)(第一三三三三号)

同月十三日

日雇労働者に対する失業保険法改正等に関する請願(米原親君紹介)(第一四三三三号)

同月十八日

同月六日

職業安定法施行規則第二十四条中に派出婦を追加の陳情書(大阪府池田市栄町二丁目七百三十四番地有料営利看護婦紹介業大阪府代表豊岡サ

イ(第五六五号)

同月二十日

特定地方労働委員会委員の定員増加に関する陳情書外四件(名古屋市中区南外堀町愛知県地方労働委員会委員長宗本利宗外四名)(第六三二二号)を本委員会に送付された。

本日の会議に付した事件

理事の互選

夏時刻法の一部を改正する法律案(内閣提出第八号)

労働組合法の一部を改正する法律案(内閣提出第一〇二号)

吉武委員長代理 それではただいまより会議を開きます。

○吉武委員長代理

それではただいまより会議を開きます。

本日は倉石委員長が御都合が悪いので私が委員長代理を行います。御了承を願います。

お諮りいたしますが、去る二月二十四日に理事稲葉修君が委員を辞任されましたので、理事が一名欠員になっております。この際理事の補欠選挙を行わなければならないと思いますが、委員長において指名するに御異議ございませんか。

〔異議なしと呼ぶ者あり〕

○吉武委員長代理

御異議なしと認めます。それでは稲葉修君を理事に指名いたします。

次に夏時刻法の一部を改正する法律案及び労働組合法の一部を改正する法律案の両案を一括議題といたします。まず政府側より順次提案理由の説明を求めます。鈴木労働大臣。

夏時刻法の一部を改正する法律案

夏時刻法の一部を改正する法律案

夏時刻法(昭和二十三年法律第二十九号)の一部を次のように改正する。

第一条及び第二条第一項中「四月」を「五月」に改める。

附則

この法律は、公布の日から起算して六月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

労働組合法の一部を改正する法律案

労働組合法(昭和二十四年法律第七十四号)の一部を次のように改正する。

第十九条第二十項中「東京都」を「東京都、北海道、大阪府及び福岡県」に改める。

附則

この法律は公布の日から起算して六月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

北海道、大阪府又は福岡県の地方労働委員会は、当該地方労働委員会委員の定数のうち、労働組合法第十九条第二十項の改正規定により増加した数を充當するため新たに委員が任命されるまでは、なお改正前の定数をもつて組織する。

3 前項の地方労働委員会の委員であつて、当該地方労働委員会の委員定数のうち労働組合法第十九条第二十項の改正規定により増加した数を充當するため新たに任命されたものの任期は、同条同項本文において準用する同条第十一項本文の規定にかかわらず、任命の日からこの法律施行の際現に当該地方労働委員会の委員である者の任期満了の日までとする。

○鈴木国務大臣 だいたい議題となりまして労働組合法の一部を改正する法律案につきまして、その提案の理由を御説明いたします。

労働組合法におきましては、地方労働委員会及び公益委員各五人でありまして、例外として東京都地方労働委員会のみは、その事務が多量なため、中央労働委員会と同一く、各七人となつております。改正労働組合法の施行の実績にかんがみましますに、北海道、大阪府及び福岡県の地方労働委員会につきましては、その事務は他の府県の地方労働委員会の事務に比して相当繁忙でありまして、その事務の処理を迅速にし、労働組合法及び労働関係調整法の施行を円滑にいたしますには、これらの地方労働委員会の定数を増加する必要があるに至つたのであります。なおこれにつきましては、昨年秋行われまして第四回労働委員会連絡協議会においても、定数の増加が強く希望されたところでありますので、ここにこれら地方労働委員会の定数を、東京都地方労働委員会の定数と同じく、使用者委員、労働者委員

及び公益委員をおの／＼二人増加し、各七人としたため、この法律案を提出した次第であります。何とぞ御審議の上、すみやかに可決せられんことをお願いいたします。

○吉武委員長代理 菅野内閣官房副長官。

菅野政府委員 夏時刻法の一部を改正する法律案の提案理由を御説明いたします。

現行夏時刻法は昭和二十三年より実施せられたのであります。昭和二十三年におきましては、立法の時期的關係上、夏時刻は臨時に五月の第一土曜日より開始せられたので、この法律通り夏時刻が四月第一土曜日から始められましたのは、昨二十四年が初めてであります。この夏時刻制度は、何分わが国にとつてまづたく新しい試みでありましたので、政府としまして、その成果には時に大きな関心をもちまして、一昨年以來その実施の状況を種々調査検討して参つたのであります。その結果、本制度の実施によりまして、日光活用による電力の節約、その他国民生活の改善促進等、所期の好ましい効果は、もちろんこれを収め得たのであります。が、他方実生活面において、種々不都合な点のあることも、また明らかとなつたのであります。そのおもなるもののみを取上げてみますと、大体において夏時刻により、早朝未明、または寒冷時に起床を余儀なくされることに基く生活上の支障であります。これらを具体的に検討いたして見ますと、その不都合な点は、おおよそ夏時刻の始まる四月において、特に顕著なのであります。もしその始期を五

月に改めるならば、その大部分は著しく緩和され得る性質のものと考えられるのであります。本制度実施後、各方面で行いました世論調査の結果を見ても、大多数の意見がその始期を一箇月遅らせることを希望していることは、右の事情を反映するものと思われまます。

ただ問題となりますのは、本制度の大きなねらいの一つである電力節約との關係であります。昨年の夏時刻開始前後、各一週間における実績調査によりまして、四月に夏時刻を実施したことによつて、電力の節約としてはほとんど見るべき効果は得られなかつたのであります。すなわち最大電力においては一・二%の減少を見ましたが、電力量としてはむしろ〇・八%の増加という結果を示しているのであります。もちろんこれは昨年度のみの調査に基くものであり、かつ電力量の増減は、種種の事情の影響を受けるものであります。すなわち、右の結果をもつて、ただちに決定的判断の資料とはなし得ないのであります。が、なおこれにより、四月の夏時刻制実施と電力消費との關係について、大体の傾向はこれを推知し得るものと考へます。なお四月は一般に雪解けのため、水力電氣も増加し、電力の需給關係は、年間を通じて最も緩和される時期に該当しているという事情もあるものであります。従いましてこれらの点を総合判断いたしますと、夏時刻の開始時期を四月から五月に改めましても、電力節約の問題に関しては、さしたる悪影響はないものと考へられるのであります。

以上述べました理由により政府としては、国民生活等の実情を考慮しつつ、しかも本制度の趣旨を十分生かして参りますため、この夏時刻の現行開始時期たる四月第一土曜日を、五月第一土曜日に改めることといたしまして、ここに本法律案を提案いたしました次第であります。

何とぞ慎重御審議の上、すみやかに可決あらんことを希望いたします次第でございます。

○吉武委員長代理 質疑を許します。

○柄澤委員 議事進行について……先日から労働委員会が開かれることを私も熱望しておつたのでございまして、専断裁定その他に關連いたしましたので、今日まで残念ながら開かれなかつたのでございまして、このことは非常にわれ／＼としても遺憾だと思つて、この次第でございます。きょう実は今運営委員会で、この専断裁定の取扱いにつきまして、われ／＼の党の各代表が、増田官房長官に政府の態度を明らかにして、もちろことについて質問されている最中でございます。労働委員長である倉石氏を初めとし、自由党の労働委員会の各委員も、そこに運営委員として出席されているのでございまして、お見受けいたしますと、労働委員の数も非常に少く、私委員会が成立しておらないように思ふのでございまして、議事進行について、その点さういふことが明らかになりましたから、進められていたきたい。でありますからこのままの議事進行について、反対の意見を申し述べさせていただきます。

○吉武委員長代理 ちよつと速記をやめてください。

〔速記中止〕

○吉武委員長代理 それでは労働事情に關する件は次会に持ち越すことにいたします。

次会は明二十三日午前十一時より開会いたすこととし、本日はこれにて散会いたします。

午後二時五十分散会